

# 中学校「社会」〔公民的分野〕における身近な社会資本を題材とした 環境教育プログラムの開発と実践

学籍番号 1019737 濱野 優貴  
指導教員 市川 智史

## 1. はじめに

環境教育では、環境に関わる活動に主体的に関与したり、参加したりする市民を育成することが目標に掲げられている。また関与・参加においては身近な地域における活動が重視されている。

中学校「社会」〔公民的分野〕(以下、「公民的分野」と記す)の学習指導要領では「環境の保全」と並んで「社会資本の整備」が記されているが、教科書では「社会資本の整備」と「環境の保全」は別々に記述されており、両者を関連づけた記述はほとんど見られない。また、教科書に記述されている社会資本は、道路、港湾、上下水道などの大規模なものばかりで、生徒自身の生活や環境に関わる身近な社会資本は取り上げられていない。

小・中学校における先行研究では、身近な社会資本を題材として「社会資本の整備」と「環境の保全」を関連づけた環境教育プログラムは見当たらない。

そこで本研究では、生徒が自分事ととらえやすい身近な社会資本として、学校周辺の河川を取り上げる。そして、河川の整備や改修計画に主体的に関与・参加し得る市民の育成をめざした環境教育プログラムの開発と実践的検証を目的とする。

## 2. プログラムの作成

本プログラムの学習目標として次の3つを設定し、8時間構成のプログラムを作成した。

- ①河川の整備において、自分自身も当事者の一人であるという意識を持つ。
- ②河川の整備について、自分なりの考えを持つ。
- ③河川の整備においては、立場の異なる人たちの合意形成に向けた対話が重要であることを学ぶ。

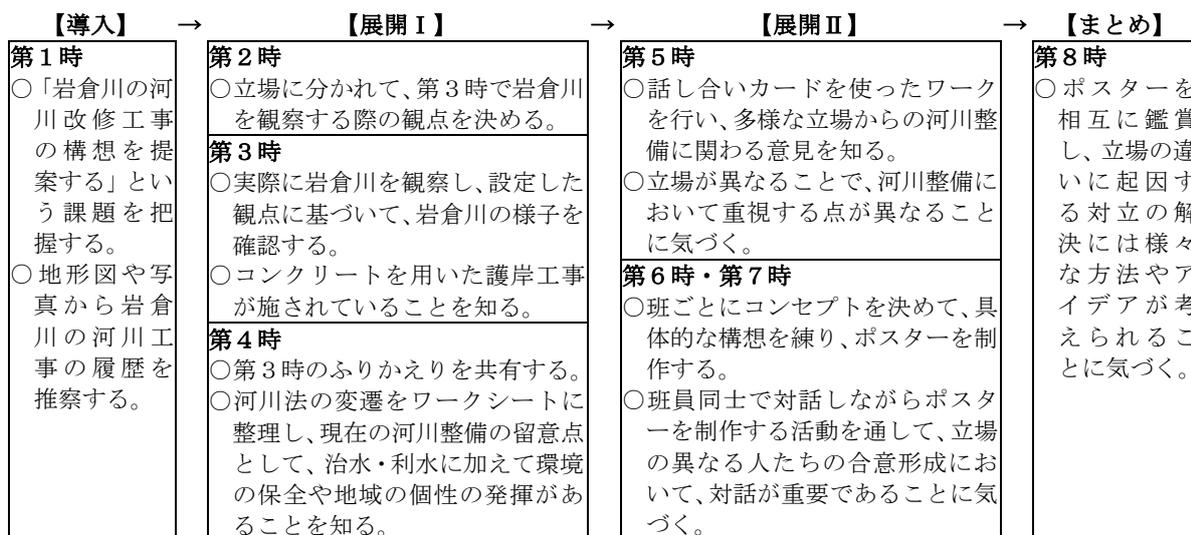


図1 プログラムの流れ

## 3. 実践的検証の方法

京都市内の私立中学校の協力を得て、試行実践を行った。筆者自身が第3学年の3クラス、109人を対象として2020年9～10月に行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、班活動やフィールドワークの制限、授業時間の短縮といった措置が講じられた。そのためポスター作成の時間を1時間増やし、9時間構成に変更した。

試行実践を開始する直前の授業、第9時の直後の授業において、Google フォームを用いた調査を行った。回答数は、事前・事後調査ともに103（人）であった。事前・事後調査のどちらか片方、または両方に無回答の生徒を欠損値としたところ、有効数は98（人）となった。

#### 4. 実践的検証の結果と考察

##### 1) 目標①：達成できたと考える

対象生徒の約半数は、事前段階で社会資本の整備について「家族や友人等との話し合い経験」があり、約8割は「自分に関係ない」とは思っていなかった。すなわち、実践前から当事者意識を持っている生徒が多かったと推察できる。

本プログラムの結果、9割を超える生徒に「自分の考えを持つべき」であり、「自分自身の生活に大きくかかわる」ことであるとの意識を持たせ、その意識を強化できた。また、自分の住んでいる地域の社会資本の整備について「調べてみたい」、「意見を述べる機会があれば参加してみたい」との意欲を高められた。

##### 2) 目標②：達成できたと考える

河川整備で最も重視すべきこと（記述式）の設問で、「わからない」と回答した生徒は、本プログラムによって約3分の1に減少し、約1割となった。言い換えれば、約9割が「自分なりの考えを持つ」ことができたと言える。

また、同設問で複数のカテゴリに分類される回答が増えたことは、河川整備を多様な観点からとらえられるようになったことを示している。

##### 3) 目標③：十分には達成できなかったと考える

河川整備で最も重視すべきこと（記述式）の設問で、事後に少数ではあるが「地域の意思・コンセンサス」というカテゴリが認められた。また、実践時の様子や学習記録からは、異なる意見への気づきや合意形成の難しさを学んでいた様子がうかがえた。

他方、河川整備の進め方に関する考え（選択式）では、事前段階から約半数が合意形成の重要性を理解しており、事後においても変化は見られなかった。

目標③の達成に向けては、立場カードや話し合いカードの機能が十分発揮されるよう、ポスター作成の際に、複数回使用することも含め、より一層活用することが重要であると考えられる。

#### 5. おわりに

本プログラムの題材である身近な地域の河川は、多くの中学校の近隣に存在する。また本プログラムの実施には、特殊な教材を必要としない。したがって、本プログラムには汎用性があると考えられる。

表1 社会資本の整備に関する考え

	とても そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
(1)社会資本の整備について自分の考えを持つべきだ。				
前	17.3	67.3	13.3	2.0
後	39.8	54.1	5.1	1.0
(2)自分の住んでいる地域の社会資本の整備について調べてみたい。				
前	5.1	36.7	50.0	8.2
後	18.4	55.1	24.5	2.0
(3)自分には、社会資本の整備は関係ないことだ。				
前	3.1	15.3	56.1	25.5
後	3.1	14.3	52.0	30.6
(4)自分の住んでいる地域の社会資本の整備について、実際に意見を述べる機会があれば参加してみたい。				
前	4.1	22.4	58.2	15.3
後	11.2	40.8	41.8	6.1
(5)社会資本の整備は、自分自身の生活に大きくかかわることだ。				
前	45.9	45.9	5.1	3.1
後	65.3	29.6	4.1	1.0

表2 河川整備で最も重視すべきこと（記述式）

カテゴリ	件 (%)
①防災・安全・丈夫さ	前 42 (40.8)
	後 55 (53.4)
②自然・生き物	前 21 (20.4)
	後 34 (33.0)
③親水・アメニティ	前 12 (11.7)
	後 17 (16.5)
④地域の意思・コンセンサス	前 0 (0.0)
	後 7 (6.8)
⑤わからない	前 32 (31.1)
	後 11 (10.7)
⑥その他	前 3 (2.9)
	後 6 (5.8)